

## 「歯冠修復物製作時の咬合を咬合器上で考える」

佐藤敏哉

### 【抄録】

歯冠修復物製作時に目標とする咬合の与え方は、安定した咬頭嵌合位、前方側方運動時には臼歯部に適度な離開を与えスムーズな顎運動をさせる事を目標にしています。それらを的確に与える事で過剰な咬合圧が局部的にかかる事を減らし、補綴物の破損などのトラブルが回避されると考えています。とは言うものの、日常臨床においては、不正歯列やすれ違い咬合による咬合平面の乱れ、また下顎位の偏位などがあり、また補綴出来る範囲も制限されるため、理想的に全顎を改善していけるケースは多くはない様に思っています。このように咬合を考えると歯科技工士が模型だけと向き合っているだけでは難しく、歯科医師との連携が必要になると考えます。今回の発表は下顎位の偏位から補綴スペースの少なくなったケースを歯科医師と連携をとりながら、より良い咬合を目指した症例を紹介します。

## 「歯科技工士教育制度の変遷と国家試験について」

西俣 稔子

### 【抄録】

2014年の歯科技工士法一部改正により2015年度から歯科技工士国家試験が全国統一化されました。しかし、歯科技工士全体で見ると、8割以上は以前の都道府県別試験を受験した歯科技工士であり、統一試験を受験した歯科技工士はまだ少数派といえます。今はどんな試験なのか、また、過去はどのような試験だったのか、互いに疑問点もあるのではないかと思います。実は本講演の機会を頂くことになったのも現在の国家試験について誤解が生じていたことがきっかけでした。そういったこともあり、教育制度や国家試験について変更点を中心にお話ししたいと思います。